

根こぶ病抵抗性

宇治交配 **CR 京の春**

根こぶ病抵抗性品種、耐寒性あり分枝数多い早生種！

特 性

- ① 根こぶ病抵抗性（CR）品種ですので汚染圃場でも安心して栽培できます。
- ② 生育旺盛で強健な分枝が出やすく、早生品種としては耐寒性に優れているので高品質の花蕾を長期間収穫できます。
- ③ 花蕾が濃緑で市場性が高く、又花蕾近くの葉が小さいのでパック詰めしやすく省力化が期待できます。
- ④ 一般平坦地では8月下旬より播種可能で、60～70日で収穫初めとなります。その後適切な管理をすれば品種特性（高収量・高品質）をより一層発揮できます。



栽培のポイント！

① 播種準備

畑地・水田を問わず完熟堆肥を投入し、地力を高めることが大切で、品質のよい花蕾を長期間収穫するための基本となります。化学肥料にたよると、『色あせ』を起こしやすく分枝も堅作りとなり、全体的に収量が低下します。

施肥の基本は肥効を持続させることです。但し、元肥を極端に多くすると過繁茂になり結果として収穫が遅れ、生育途中で栄養バランスがくずれると病気の発生や色あせの原因となりますので注意してください。元肥としては窒素で10～15kg/10a程度がよく、緩効性肥料を主体として、使用することをお勧めします。

② 播種・間引き

畝幅は2条植えの場合130～140cm、1条植えで70cmとし株間30～35cmで、一カ所に5～6粒の点播とします。間引きの方法は本葉2～3枚期に一カ所3本程度残し、本葉5～6枚時に1本仕立てとします。

9月下旬以降の遅まきの場合は、主茎の太りが悪く分枝数も少なくなるので、播種方法は薄くすじ播きとし、間引きの際株間15～20cmと少し狭くとることにより栽植本数を多くします。直まきの場合の必要種子量は播種方法にもよりますが、約3～4dl/10aです。移植栽培の場合は、播種床に薄くばら播きをして発芽してき

たら、生育不良なものを順次間引き、最終的に本葉3～4枚までには5cm間隔となるようにします。本葉5～6枚となった時に本圃に定植します。

③ 収穫までの管理

発芽直後は特にアブラムシ・キスジノミハムシ等の食害には十分注意します。

前述のように、はなな栽培においては「肥効の持続」がポイントですので、株の状態をみながら適時追肥してください。特に大切なことは地際から伸長する第一分枝を太く強健に仕立てることであり、そうすることでより大きな花蕾の第二分枝の収穫が可能となります。収穫わずか、あるいは極小花蕾を放置すると開花授粉します。授粉結実すると株が極端に老化し、その後の分枝の発生に悪影響をおよぼします。開花した枝は速やかに鎌で刈るなどして、株の老化を防いでください。

④ 収穫

はななの栽培は何と言っても収穫遅れにならないことです。又、収穫後は急速に品質が低下するので、出荷まではできるだけ低温下に置くようにしてください。

施肥例（10a）

肥料名	成分量 N29 P25 K29			
	元 肥	追 肥 1	追 肥 2	追 肥 3
完熟堆肥	4000kg			
苔土石灰	100kg			
燐加安	40kg			
IB化成050	60kg			
マグホス	40kg			
NK化成		40kg	40kg	40kg
施肥時期	畝立前	播種後 40日頃 定植後 10～15日頃	主枝・第一分枝の収穫後、草勢を見て適時	草勢・花蕾の色を見て適時

下記標準栽培表参考に貴地の気候に合わせて栽培してください。

